

食肉産業における豚

都立皮革技術センター 吉村圭司

豚（学名*Sus scrofa domesticus*）は哺乳綱ウシ目（偶蹄目）イノシシ科の動物である。人間が猪を家畜化したのは約8000年前と推定される。イノシシはアフリカ北部からヨーロッパやアジアに広く分布し、アジア野猪、ヨーロッパ野猪、地中海野猪が祖先といわれている。人に慣れやすく、多産性であること、雑食であるために、家畜化が進んだのであろう。家畜化された豚は各地で飼われ利用されていたが、18～19世紀に入って、品種改良が盛んとなり、様々な品種が作られた。ランドレース種、大ヨークシャー種（ラージホワイ種）、中ヨークシャー種、バークシャー種、ハンプシャー種、デュロック種などが主な品種である。近年では、これらの品種を三元交雑などにより掛け合わせて生産することが多く、肉豚の約8割以上が雑種である。

豚はほぼ100%が食肉用として飼養されている。豚は肥育が早く、およそ6ヶ月で成熟体重（100～120kg）に到達し食肉とされる。1回の分娩頭数も牛の1頭に対して、豚は10頭であり、年間にとすると20頭が生まれる。飼料効率を見ると、肉専用肥育牛は体重1kg増やすのに、10～11kgの飼料を必要とするのに対し、豚は3～3.5kg程度であり経済的な家畜でもある。最近ではペット用としての小さな品種もある。ヨーロッパでは、豚肉の80%がハム・ソーセージなどの加工用であるが、日本では

80%程度が生肉として流通している。したがって、それぞれの用途に合わせた改良がされている。

2007年のFAOの統計によれば、世界中で飼養されている家畜（家禽は除く）は約46億頭である。このうち、豚は10億頭近くが飼養され、牛の約14億頭、羊の約11億頭に次いで多い（図1）。国別に豚の飼養頭数を見ると（図2）、中国が約5億頭と世界の50%を占めている。以下、アメリカ、

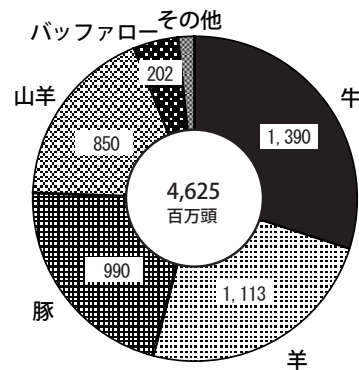


図1 世界における家畜動物の種類
資料：FAO生産統計（2007）

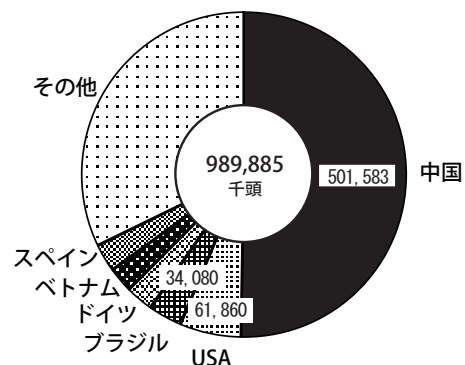


図2 世界における豚の飼養国
資料：FAO生産統計（2007）

ブラジル、ドイツ、ベトナム、スペインが主な産地で70%近くに達する。世界的に見ても、アジアで60%、ヨーロッパで20%と飼養地域の偏りが大きい。日本では、976万頭を飼育している。一方、と畜数を見ると（図3）、豚が最も多く、約14億頭であり、全と畜頭数の50%強を占めている。また、全食肉生産量においては（図4）豚肉が、11,545万トン进行占め、牛の6,188万トン、羊の889万トンを大きく引き離し食肉の約6割が豚肉ということになる。一方、国別の豚と畜頭数でもやはり、中国が7億頭を超え、50%以上を占めている。日本は例年1,500~1,600万頭程度である。国別の豚肉生産量においても（図5）、飼養国と同様に中国が50%以上を占め、上位6カ国で73%の生産量を占めている。

以上の統計で見られるように、豚はほぼ

100%が食肉のために飼養され、食肉の中心として豚は利用されていることがわかる。なお、豚皮についての統計はFAOには存在しない。実際に原皮流通量は少ない。中国に代表される東アジア圏では、皮は肉と一緒に流通することが多いこと、ヨーロッパやアメリカでは湯はぎが一般的であり、皮としての流通量が少ないことによる。しかし、豚皮は潜在的な皮革の供給源となりうる。中国の食生活の変化により、豚皮の原皮事情が大きく変動する可能性もある。

参考文献

- 1) 吉本正、本邦における豚の品種、皮革化学、32、113~132（1986）
- 2) 新編食肉の知識、社団法人日本食肉協議会（1998）

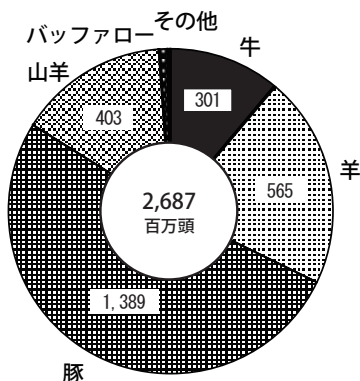


図3 世界の畜産におけると畜状況
資料：FAO生産統計（2007）

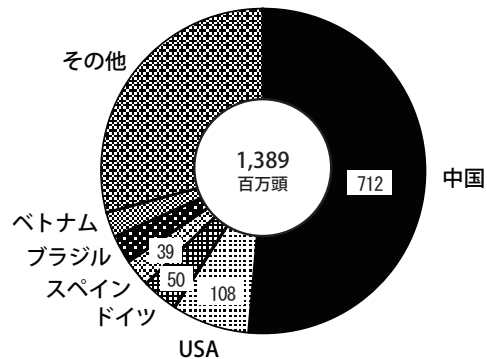


図5 世界における豚のと畜頭数
資料：FAO生産統計（2007）

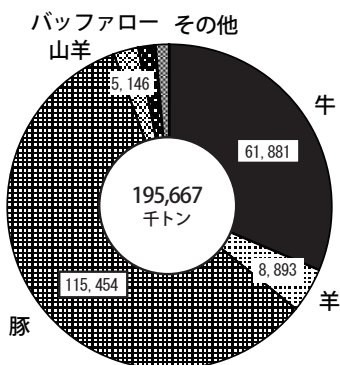


図4 世界における食肉生産の割合
資料：FAO生産統計（2007）

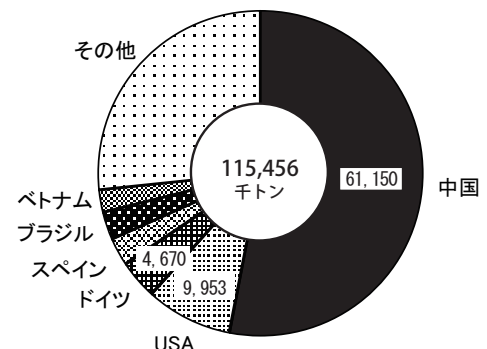


図6 世界における豚肉生産国
資料：FAO生産統計（2007）